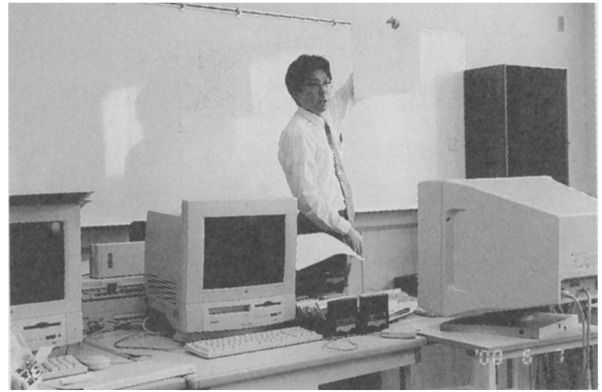


2 授業の実際

今回は2学年の選択授業2クラスにおいて授業を実践することにしました。両クラスとも5つの制作グループで編成し、各グループは生徒2、3名で構成しました。

グループごとにコンピュータ、ビデオカメラ、スキャナを1台ずつ割り当てました。



〈演習活動後、題材を提示する〉

(1) 題材提示と大テーマ（キーワード）の設定

準備段階として、演習活動の中で、コンピュータによる映像編集のシステムを大まかに理解させました。その後、題材名を「ムービー・メッセージ」と提示し、自分たちの考えやイメージを相手に伝えることを目標において、1～2分程度の映像作品にまとめ上げることにしました。

テーマは、映像の軸といえる動的、時間的要素を意識して制作させるように、「躍動」と「変化」の2つの大テーマ（キーワード）をクラス別に設定し、これをもとにグループごとにアイデアを出し合い、話し合いながらグループ・テーマを決定させました。

(2) 発想・構想段階での手立て

グループによる制作活動においては、作品に対する共通したイメージをいかに持ち得るかが重要になってくるため、発想・構想の段階におけるグループ活動では2つの手立てを講じました。

① 発想や構想段階での付箋紙の活用

グループ・テーマの模索や、映像のアイデアを持ち寄る段階では、グループの活動を活性化させるために付箋紙を利用しました。大テーマやグループ・テーマから連想した単語や、映像・音などのアイデアを思い思いに付箋紙に記入し、台紙に貼りながら検討を重ねていきました。

付箋紙の活用に関しては、ブレインストーミング^{※2}的手法でアイデアを自由に出し合ったり、KJ法^{※3}のように類型化したり、映像の流れを考えながらフローチャート状に並べ替えたりと、



〈付箋紙を活用したグループ活動〉

